

むかしのくらし展

くらしと道具のいま・むかし

会期：令和4年12月20日（火）

～令和5年3月31日（金）

むかしのくらし展は、世代を問わず親しみやすい「くらし」をテーマに、近現代の収蔵資料を紹介する企画展です。

令和4年度は「くらしと道具のいま・むかし」と題して、「装つ」「食べる」「住まう」「遊ぶ」「学ぶ・働く」「まちのうつりかわり」の6つのコーナーを設けました。コーナーごとに、江戸時代や明治の頃から使われていた様々な道具が、日本の近代化や技術革新によって、手軽で使いやすくなり、人々の暮らしも豊かになっていったことを紹介しました。



展示会場の様子



学校見学の様子

来場者からは、「アイスクリームボックスを見ることができるとは！小学生の頃に毎日通った駄菓子屋のおばちゃんの良い笑顔を思い出した」「亡くなった父はアサヒコーポレーションに勤めていて、毎日この服を着て自転車で仕事に行っていた。すごく懐かしい」など嬉しい感想もたくさんいただきました。

六ツ門図書館展示コーナーには、昭和30年代の家を再現した「昭和のおうち」があり、むかしのくらし展の時期には小学生が社会科の授業で見学に来ます。文化財サポーターの方々が道具の使い方や暮らしの移り変わりの説明を行うと、子どもたちは初めて見るダイヤル式の黒電話や、リモコンのない白黒テレビに目を丸くしていました。

六ツ門だより

例年、小学3年生が授業の一環として「むかしのくらし展」を見学しにやって来ます。1、2世代前の暮らしを学び、時代の移り変わりを知ることが歴史学習の入口であると引率の先生から伺いました。

児童の皆さんは、久留米で実際に使われていた「むかし」の道具を見学しながら、昭和30年代に小学生だった文化財サポーターの方々から説明を聞きます。一生懸命、元気いっぱいに学んでいて、展示会場が1年で最もにぎやかになる季節です。

ただ残念ながら、この2年間は、コロナ禍で団体見学の受入れを中止していましたが、人数制限を設けたうえで、ようやく再開することができました。以前は100名ほどがにぎやかに見学していたこともありましたが、今年度は一度に受け入れる児童数を35名ほどにしました。

また、希望する学校向けに、文化財サポーターの方々による説明のオンライン授業や動画配信を行い

ました。それまでカメラの前に立つ機会がほとんどなかった文化財サポーターの方々や撮影する職員にとって、児童の反応が直接見えないことや、説明を細切れに進めることはとても難しいものでした。けれども、力を合わせて取り組み、良いものをお届けできたのではないかと思います。

まだまだ手探りしながらではありますが、見学が充実したものになるように、また久留米の歴史ファンになってもらえるように、今後も関係者一同がんばります。



炭火アイロン、電気を使わない

配信動画「むかしのくらし」より
久留米市公式 YouTube チャンネルで、ぜひご覧ください！